

ふじがじょうあといど
藤ヶ城跡井戸



指 定 市有形文化財 令和4年6月30日
所在地 岩 村 田
所有者 佐 久 市

「藤ヶ城跡井戸」は、岩村田藩内藤家の居城であった藤ヶ城（岩村田城）の関連遺構である。元来、陣屋格であった内藤家は、安政5年（1858）に6代藩主正繩（まさつな）の功績により城主格に進んだ。その後、文久元年（1861）に7代藩主正誠（まさあきら）により築城が計画され、元治元年（1864）に藤ヶ城（岩村田城）を竣工し、岩村田藩陣屋に代わる政務の拠点とした。

この井戸は、竣工時に描かれたとされる「岩村田御新城分間縮図」に記載される6箇所の井戸のうちの一つであり、藤ヶ城（岩村田城）跡に現存する唯一の井戸である。井戸枠は溶結凝灰岩を加工して組まれており、前掲絵図にも記載され、移設のうえ現存する他の井戸枠と同様の作りであることから、藤ヶ城の井戸であることが裏付けられる。井戸の内部は円形の野面積みを採用し、水面までの深さは約18mであり、台地南端の要害の地に築かれた藤ヶ城（岩村田城）の水源確保のための労力や幕末の井戸掘削技術を知ることができる。

この井戸は、昭和30年代前半の上水道開通まで地域住民により使用されており、現在でも毎年正月には井戸に注連縄が飾られ、地域で大切にされている。